

中野豪雄*NAKANO Takeo* グラフィックデザイナー。勝井デザイン事務所を経て、現在中野デザイン事務所代表表。エディトリアルやダイアグラム、展覧会のデザイン等を中心に活動中。日本タイポグラフィ年鑑グランプリ受賞。武蔵野美術大学、多摩美術大学非常勤講師。

中野豪雄

中野豪雄の「紙の文化史」より「モノは人間の感性を刺激し、人間はモノの感性に反応する」という一文

Envisioning Information

Edward R. Tufte 著 | Graphics Press | 1990

Visual Explanations:

Images and Quantities, Evidence and Narrative Edward R. Tufte 著 | Graphics Press | 1997

The Visual Display of Quantitative Information

Edward R. Tufte 著 | Graphics Press | 2001 (2版)

▶エドワード・タフトの3部作として有名。過去に何度も翻訳版の出版が試みられたが、テキストの改行位置に至るまで全ての要素に意味があり他言語への移行は不可能であると著者が断り続けた。つまり、レイアウトそのものがインフォグラフィックスであることを示している。

図の記号学

視覚言語による情報の処理と伝達
ジャック・ベルタン 著 | 森田喬 訳 | 平凡社 | 1982
▶作図における構造化の原理をひも解いた名著。

図の体系 図的思想とその表現

出原栄一、吉田武夫、渥美浩章 著 | 日科技連 | 1986
▶図における意味と効果について、古今東西の図版を交えながら体系的に記した「図的思想」の基礎論。

系統樹曼茶羅

チェイン・ツリー・ネットワーク
三中信宏 著 | 杉山久仁彦 図 | NTT 出版 | 2012
▶ダイアグラムは世の中の複雑に絡み合った様々な事象を分類し、系統立て、体系化する「視覚言語」を用いることで世界像を描き出す手法である。この本では「チェイン」「ツリー」「ネットワーク」の主要な3種類の図形言語を軸に古今東西の様々な分類システムと体系構造が呈示されている。また、本書で紹介されている視覚化のルーツは、現代の我々がダイアグラムをつくる際に用いている手法となら変わりがないことに驚かされる。

情報の歴史

松岡正剛 監修 | 編集工学研究所 構成 | NTT 出版 | 1996 (増補版)
▶情報が複数の次元で並列しながら年表化され、「同時代性」を読み解く楽しみが味わえる本。

Metropolitan World Atlas

Arjen van Susteren 著 | 010 Publishers | 2005
▶全東京都に関する基礎データのグラフと地図のみ。形式を描えることによってデータの変数を示すことが体现された本。

I swear I use no art at all

Joost Grootens 著 | 010 Publishers | 2011 (Second edition)
▶出版人でありデザイナーでもあるヨーストグローテンス初の作品集。ステレオタイプな作品集とは一線を画すその編集内容に情報の可視化への強いこだわりを感じる本。

視覚の領界

勝井三雄 著 | 富山県立近代美術館 | 2004

視覚の地平線

勝井三雄 著 | 宣伝会議 | 2003
▶半世紀に渡る勝井三雄のデザインワークとその背景となる壮大な思考法を明示した2冊。

ggg books 別冊10 勝井三雄 1954-2013

勝井三雄 著 | DNP文化振興財団 | 2013
▶過去と現在、分子と宇宙、論理と感性、見えるものと見えないもの。これらの間(あわい)にある壮大なスケールと、複雑な事象の関係性と共振性を、グラフィックデザインを通して明らかにする方法論が散りばめられた論集。

世界のグラフィックデザイン ヴィジュアルコミュニケーション

杉浦康平、松岡正剛 編 | 講談社 | 1976

世界のグラフィックデザイン エディトリアルデザイン

勝井三雄、大淵武美 編 | 講談社 | 1975

文字百景 060 タイポグラフィーを支えるもの

新島実 著 | 朗文堂
▶「デザインにおける専門性とは何か」この問いにタイポグラフィにおける視覚論から迫った論考。

原研哉

グラフィックデザイナー。武蔵野美術大学教授。独自の視点から日常や人間の諸感覚に潜むデザインの可能性を提起。近年は「観光」「家」「新素材」「移動」「美意識」などから、新たな産業ビジョンを構想することに注力している。主著に「デザインのデザイン」(岩波書店)、「白」(中央公論新社)、「日本のデザイン」(岩波書店)。

生とデザイン かたちの詩学 I

向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2008
▶言葉とかたち、意味とリズム、身体と宇宙にむけて知と感覚がひらかれる書。

「いき」の構造 他二篇

九鬼周三 著 | 岩波文庫 | 1979 (初出 1930)
▶日本人の心情に根ざす慎ましくも誇らしい感受性を丁寧に掘り下げていた。

陰翳礼賛

谷崎潤一郎 著 | 中公文庫 | 1995 (初出 1933)
▶日本の空間にたたえられる陰翳にいかなる美意識が潜んでいるかを多角的に解説。

茶の本

岡倉天心 著 | 岩波文庫 | 1961 (初出 1929)
▶西洋のシンプリシティとは異なる東洋・日本の感覚資源について言及した一冊。

ふすま 文化のランドスケープ

向井一太郎、向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2007
▶白い紙がびんと張っている状態と、人間の心の張り結び琴線に触れる一冊。

白

原研哉 著 | 中央公論新社 | 2008
▶混沌から輝きを伴って「意味」が屹立してくる様相を「白」の概念の周辺に探る。

建築家なしの建築

バーナード・ルドフスキー 著 | 鹿島出版会 | 1984
▶専門性を笑い飛ばし、人類の知恵の所在を明快に指摘する痛快な書物。

なぜフォークの歯は四本になったか

ヘンリー・ペロスキエ 著 | 平凡社ライブラリー | 2010
▶もの進歩は「成功」ではなく「失敗の連続」で生まれることに気づかされる。

フラジヤイル 弱さからの出発

松岡正剛 著 | ちくま学芸文庫 | 2005
▶「弱さ」は、人間の感覚感度を倍増させる起爆装置であることが理解できる。

歴史の歴史

杉本博司 著 | 六耀社 | 2004
▶未来において「価値」はどこからもたらされるかについて気づかされる。

松田行正

グラフィックデザイナー。ブックデザインを中心に活躍中。出版社「牛若丸」主宰。著書に「眼の冒険」(紀伊國屋書店、第37回講談社出版文化賞ブックデザイン賞受賞)など。牛若丸の最新刊は「B PLASTIC BEATLE ビートルズの遊び方」(牛若丸)。

メディアとしての紙の文化史

ライター・ミュラー 著 | 三谷武司 訳 | 東洋書林 | 2013
▶紙と人の親和性について語る

2100年の科学ライフ

ミチオ・カク 著 | NHK出版 | 2012
▶衝撃的な科学による未来予測

ヨーロッパ文明の正体

何が資本主義を駆動させたか
下田淳 著 | 筑摩選書 | 2013
▶樓み分け理論に基づいたヨーロッパ論

炭素文明論 「元素の王者」が歴史を動かす

佐藤健太郎 著 | 新潮選書 | 2013
▶炭素から見た人類の歴史

唯幻論大全 岸田精神分析 40年の集大成

岸田秀 著 | 飛鳥新社 | 2013
▶歴史を発明した人間の幻想に迫る

本の透視図 その過去と未来

菅原孝雄 著 | 国書刊行会 | 2012
▶本の未来について語る

レイヤー化する世界 テクノロジーとの共犯関係が始まる

佐々木俊尚 著 | NHK出版新書 | 2013
▶来るべき世界の分析と提言

たくさんのふしぎ傑作集 本のれきし5000年

辻村益明 著 | 福音館書店 | 1992
▶本の歴史の絵解きで概観する

本の歴史文化図鑑 5000年の書物の力

マーティン・ライアンズ 著 | 蔵持不三也、三方康義 訳 | 終風舎 | 2012
▶本の歴史をより詳細に語る

Popville

Amouck Boisrobert ほか 著 | Roaring Brook | 2010
▶だんだん街ができてくるポップアップ絵本

時の冒険 デザインの想像力

松田行正 著 | 朝日新聞出版 | 2012
▶さまざまな視点から「時」を読み解く

和的 日本のかたちを読む

松田行正 著 | NTT 出版 | 2013
▶日本文化を象る美意識のルーツ探し

向井周太郎

武蔵野美術大学名誉教授、インダストリアルデザイナー。ウルク造形大学およびハノーバー大学のフェローを経て、武蔵野美術大学に基礎デザイン学科を設立し新しいタイプの人材の育成とデザイン学の形成に力を注ぐ。他に国際デザイン研究評議会 (BIRD) 委員、基礎デザイン学会会長、日本記号学会理事等を務める。

講義との連関で——他者からの創造の恵み——自著から ……………

かたちの詩学 morphopoiēsis I・II
向井周太郎 著作集十コンクリート・ポエトリー選集
向井周太郎 著 | 美術出版社 | 2003
編集 田中為芳 | 造本・デザイン 原研哉＋松野薫

生とデザイン かたちの詩学 I

向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2008 | 編集 角谷涼子
解説＋カバーデザイン 原研哉 | 本文デザイン 原研哉＋秋山孝子

デザインの原像 かたちの詩学 II

向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2009 | 編集 角谷涼子 | 解説 深澤直人
カバーデザイン 原研哉 | 本文デザイン 原研哉＋秋山孝子
▶上記2冊は先の「かたちの詩学 morphopoiēsis I ・II」を文庫版として再構成したもの。

デザイン学 思索のコンステレーション

向井周太郎 著 | 武蔵野美術大学出版局 | 2009
編集 木村公子＋肴倉睦子 | 装丁 板東孝明 | 本文組版 清水恒平

▶2003年、大学退任最終講義のまとめ。

ふすま 文化のランドスケープ

向井一太郎、向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2007 | 編集 角谷涼子
栗 伊藤ていじ | 解説 金子務 | カバーデザイン 山口信博＋大野あかり
▶1997年、住まいの図書館出版局から刊行の「ふすま」の文庫化。

デザインを「みぶり」から考察するうえで、想像力を喚起された主な本から ……

身ぶりと言葉

アンドレ・ルロウ＝グリーン 著 | 荒木亨 訳 | ちくま学芸文庫 | 2012
▶1973年新潮社版の文庫化 (原著 1964)。ルロウ＝グリーンは、人間の手と口の身振りに文明の起源を見ました。

リズムの本質

ルートヴィヒ・クラークス 著 | 杉浦実 訳 | みすず書房 | 1971 (原著 1923)

▶クラークスの「リズムは生命に所属し類似者の再帰である」という洞察。

声と現象

ジャック・デリダ 著 | 林好雄 訳 | ちくま学芸文庫 | 2005 (改訂版新版)

▶「自分が話すのを聞く」という声の現象性への覚醒。

私は原著 1967年版の高橋允昭訳・理想社版を参照してきました。

日本の文化、言語、美学の根源と語われた主な本から ……………

「いき」の構造 他二篇

九鬼周三 著 | 岩波文庫 | 1979 (初出 1930)

▶「いき」が「生きる構え」、「すき」が世界やほかの構え方という私自身の「すき」の構造 (「ふすま」所収) の発見方法を学びました。

陰翳礼讃

谷崎潤一郎 著 | 中公文庫 | 1975 (初出 1933)
▶ゲートの「くもり」にも適度する美の娯賞としての陰翳のこころと日本固有の現象性とことばの美を体験しました。

風土 人間学的考察

和辻哲郎 著 | 岩波文庫 | 1979 (初出 1935)
▶「風土」という場所の記憶の総体としての自然と文化の生命性からデザインを考えることや風土と言語の問題性を喚起されました。

「かたちのポイエーシス (morphopoiēsis)」探究との連関から ……………

胎児の世界 人類の生命記憶
三木成夫 著 | 中公新書 | 1983
▶ゲートの形態学探究の過程で 1960年代に出会った解剖医学者・三木成夫 独自の生命形態学からの名著の一つ。

自然と象徴 ―自然科学論集―

J.W.v.ゲテ 著 | 高橋義人 編訳 | 前田富士男 訳
富山房百科文庫 | 1982
▶ゲートの形態学や色彩論など自然科学論への手引きとなる名編訳著。

いま、あらためて読まれてほしい一冊から ……………

スモール イズ ビューティフル 人間中心の経済学

E.F. シューマッハー 著 | 小島慶三、酒井懋 訳 | 講談社学術文庫 | 1986

▶1973年に現代文明の病根を痛撃しつつ、新しい社会構想として提起された革新的文明のヴィジョン。それはガンジーやラスキンの思想にも通底します。

デザインへと私の道路を変えた一冊 ……………

白バラは散らず ドイツの良心 ショル兄妹
インゲ・ショル 著 | 内垣啓一 訳 | 未来社 | 1964
▶この原書「Die weiÙe Rose」(1955年)との出会いは衝撃的でした。著者紹介には、このショル兄妹追悼記念として、ウルム造形大学発足のメッセージが放たれていたからです。

室賀清徳 MUROGA Kiyonori

東京大学文学部美学芸術学専修課程卒。デザイン誌「アイデア」編集長。同誌をはじめ、デザイン関連書の編集に携わる。古今東西のデザインの思潮を毎号特集し、その批評性と美しい誌面で、同時代における最高のデザイン誌との評価を得る。

技術への問い

マルティン・ハイデッガー 著 | 平凡社ライブラリー | 2013

デザインと犯罪

ハル・フォスター 著 | 五十嵐光二 訳 | 平凡社 | 2011

さまざまな空間

ジョルジュ・ペレック 著 | 水声社 | 2003

弓と禪

オイゲン・ヘルゲル 著 | 福富栄次郎、上田武 訳 | 福村出版 | 1981

声の文化と文字の文化

W.J. オング 著 | 林正寛、糟谷啓介、桜井直文 訳 | 藤原書店 | 1991

禪とオートバイ修理技術 上・下

ロバート・M. バーンシング 著 | 五十嵐美克 訳 | ハヤカワ文庫 | 2008

日常実践のポイエティーク

ミシェル・ド・セルトー 著 | 山田登世子 訳 | 国文社 | 1987

文学とテクノロジー 高山宏セレクション〈異貌の人文学〉

ワイリー・サイファー 著 | 野島秀勝 訳 | 白水社 | 2012

文房具を買いに

片岡義勇 著 | 角川書店(角川グループパブリッシング) | 2010

ヨーロッパ退屈日記

伊丹十三 著 | 新潮文庫 | 2005

山口信博

グラフィックデザイナー。有限会社山口デザイン事務所代表。一方、「折形デザイン研究所」を主宰し、日本の伝統的な礼法である「折形」とデザインを統合する試みを探究している。俳句結社「渾」同人。

復刻伊勢貞丈「包結記」

荒木真喜雄 著 | 淡文社 | 2003
▶折形のバイブル。現代語訳付きである。

神典形象

松浦彦操、大宮司朗 著 | 八幡書店 | 2008(復刻版)
▶魅力的だが、危険な書物でもある。

ものと人間の文化史シリーズ **結び／包み／ひも**

額田巖 著 | 法政大学出版局 | 1972
▶包みと結びを考える上で重要な書物。

古代研究 祭りの発生／国文学の発生

折口信夫 著 | 中公クラシクス | 2002

北園克衛の詩と詩学 意味のタペストリーを細断する

ジョン・ソルト 著 | 田口 哲也 訳 | 思潮社 | 2010
▶北園克衛研究でありながら日本文化論となっている。

デザイン学 思索のコンステレーション

向井周太郎 編 | 武蔵野美術大学出版局 | 2009

ふすま

文化のランドスケープ
向井一太郎、向井周太郎 著 | 中公文庫 | 2007
▶この二冊を座右の書としている。

山崎和彦

デザイナー／千葉工業大学デザイン科学科教授。クニナップ(株)デザイン室、日本IBM(株)デザインセンター長を経て退職。グッドデザイン賞審査委員、HCD-Net副理事長。代表作は「ThinkPad」。主な著書は「エクスペリエンス・ビジョン」。

アキッレ・カスティリオーニ

自由の探求としてのデザイン
多木陽介 著 | アクシス | 2007
▶カスティリオーニの作品や活動を通して、モノとデザインの原点が分かる本

From Lascaux to Brooklyn

Mr. Paul Rand 著 | Yale University Press | 1996
▶ポーランドが死ぬ直前に後世のデザイナーに残した遺言書。世界の美しいモノの秘密を探求した活動と作品の解説を通して、デザインとは何か語っている。

Envisioning Information

Edward R. Tufte 著 | Graphics Pr | 1990
▶複雑な情報をどのように表現をすれば、分かりやすくなることのできるのか、豊富な事例を通して紹介している。

ムナーリのことば

ブルーノ・ムナリー 著 | 平凡社 | 2009
▶クリエーションをする人は、まず読んでみる必要がある本。

RE DESIGN 日常の21世紀

原研哉 著 | 朝日新聞社 | 2000
▶日常の道具をリ・デザインすることで、新しい世界が広がる事例を紹介している。

ウェブ戦略としての「ユーザーエクスペリエンス」

Jesse James Garrett 著 | 毎日コミュニケーションズ | 2005
▶ユーザーエクスペリエンスの考え方やアプローチを紹介してくれる。

情報デザインの教室

情報デザインフォーラム 著 | 丸善 | 2010
▶情報デザインを学ぶための教科書。

ビジネスモデル・ジェネレーション

ビジネスモデル設計書
アレックス・オスターワルダー 著 | 翔泳社 | 2012
▶ユーザー、ビジネス、デザインを結ぶ視覚化のためのやり方を学べる。

エクスペリエンス・ビジョン

ユーザーを見つめてうれしい体験を企画するビジョン提案型デザイン手法
山崎和彦 他著 | 丸善出版 | 2012

▶ユーザー体験という視点より新しいビジョンを提案するためのアプローチを学べる。

米澤敬

1979年、松岡正剛主宰の遊塾に入塾。工作舎書店営業、アシスタント・デザイナーを経て編集者に、2001年より工作舎編集長。著書は「mineralium index」『変』など。最近の編集担当書籍は『普遍音楽』。

アジアの音・光・夢幻 杉浦康平デザインの言葉

杉浦康平 著 | 工作舎 | 2011
▶杉浦デザインは、ダヴィンチやデュシャン、世阿弥や利休らと同時に語られるべき世界的事件である。音楽イベントのプロデュースも手がけ、レコード・ジャケット等のデザインにも傑作が多い。氏のデザインからは音が響きこえる。

普遍音楽 調和と不調和の大いなる術

アタナシウス・キルヒャー 著 | 菊池寛 訳 | 工作舎 | 2013
▶ルネサンス期最大の博識家、キルヒャーが、当時ヨーロッパに知られていたすべての音楽を分析解説。例によって奇説珍説のオンパレードでありながら、バロック音楽の地ならしをした画期的労作である。不思議な図版も満載。

字訓

白川静 著 | 平凡社 | 1987(普及版 2017)
▶日本語(やまと言葉)の「音」に墨み込まれた祝と祝の世界のガイドブック。漢字伝来以前の日本の光景がたちあらわれてくる一冊である。日本を概念工事するならば、本書と「字訓」は不可欠だ。

B PLASTIC BEATLE ビートルズの遊び方

米澤敬 著 | 牛若丸 | 2013
▶自著。事物と編集をキーワードとしてビートルズの魅力の秘密にせまる試み。実はところどころで、松岡正剛時代の工作舎と雑誌「遊」をビートルズに仮託してみた。造本先行で書き上げた一冊。

天國のをりものが

山崎春美 著 | 河出書房新社 | 2013
▶数々の「伝説」を生んだ早熟の